

# 夢のつばさ

令和3年度  
函南小学校だより

No.11 3月号

## 「ありがとう」の気持ちでいっぱい

本年度、保護者や地域の皆様方にはたいへんお世話になりました。今回、最終号となる学校便り「夢のつばさ」では、卒業生である6年生に向けた文章を載せたいと思います。



## 自分で考えて行動することの大切さ

渡邊 衛

6年生の皆さんが大人になったとき、日本はどういう社会になっているのでしょうか？きっとみなさんを取り巻く環境は大きく変わっていることが想像できます。今、すでにSociety5.0の時代が到来しています。AIスピーカーに「今日の天気は？」と問いかけると、AIスピーカーから、現在地の今日の天気予報が伝えられます。すごく便利な機器が誕生したものと感心させられます。

こうした情報技術は、益々進展していくことでしょう。

そして、皆さんの周りには、これからもたくさんの情報で満ち溢れていることでしょう。私たちは、スマートフォンを駆使し、簡単に答えが見いだせるようになりました。しかし、ここで大切にすべきことは、与えられた情報を簡単に信じてよいのかを自分なりに考えることです。SNSサービスによる誹謗中傷やフェイクニュースの真実性を自ら考え、判断し、行動することが求められるようになってきたのです。



令和3年度、新型コロナウイルス感染症禍の中、私たちは運動会を行いました。こうした状況の中、安全にできることは何かを一人一人が考え、皆で協力し、行動することができたのです。6年生の皆さんの1年生への応援の取組は見事でした。自分たちで安全に行える応援を考え、実行したのですから。高度情報化社会に生きる皆さんは、大量の情報をもとにじっくり深く考え、行動することが必要になります。いろいろな視点から見つめたり、皆と協議したりする中から、最適な応えを見出し行動するのです。小学校生活最後の運動会の成功は、皆さんの力によるものです。これからも、自ら深く考え、仲間と協力し行動することを大切に、活躍することを願っています。

6年生の活躍する姿は、とても頼もしく思いました。函南小学校のリーダーとして1年生から5年生までの子供たちをよくまとめ、リードする姿が見られました。大好きな6年生の成長をずっと応援しています。

3月18日(金)は、卒業式を予定しています。6年生にとっては小学校生活、最後の授業です。感動ある式になるよう全力で臨みます。

1年生から5年生の子供たちも大きな成長を見せてくれました。とても嬉しいことです。

函南小学校には「函南小学校支援会議」(コミュニティ・スクール)の委員さん、PTA役員さん、スクールアドバイザーの高橋さん、登下校見守り隊の皆さん、図書ボランティアの皆さん、読み聞かせボランティアの皆さん、交通指導員さん、きれいな花を飾ってくださる皆さん、おやじの会の皆さん、まだまだ紹介しきれない方々が教育活動の応援をしてくださっています。そして、何よりも保護者の皆さんの学校教育に対する理解と協力が嬉しかったです。大きな応援をありがとうございました。

3月は、大切な年度のまとめの月であるとともに、次年度につなげる月でもあります。函南小学校がより一層、温かく楽しい学校になりますよう職員一同取り組んでまいりますので、どうかこれからもよろしくお願ひします。(文責 渡邊)

# 6年生を送る会

2月25日(金)に「6年生を送る会」を行いました。5年生が企画運営に携わり、素晴らしい会となりました。本来なら、全校が体育館に集まって開かれるわけですが、今年も残念ながら、会場には5年生と6年生のみが入り、1～4年生までは教室で大型テレビで観るという、リモートでの実施となりました。

会場は伝統が受け継がれ、5年生が冬休み前から、こつこつ作った桜があふれ、壁や天井に咲き誇り、一足早い春を演出していました。また、1年生のペアが作った6年生の似顔絵も素晴らしかったです。



会は「函南レンジャー」が「悪者」から、1～5年生までの「メッセージビデオ」を取り戻すという流れで進みました。

取り戻した1年生のビデオには、運動会で6年生と一緒に踊ったチェッコリダンスを入れながら感謝を伝えていました。2年生は、修学旅行やプールの清掃等、1年間を振り返る劇に楽しいクイズを取り入れた内容でした。3年生はグラウンドで行った組み体操を披露しました。全員で3つの小さな花から一つの大きな花を描いていました。運動会で実施していれば大きな拍手をいただけるような素晴らしい演技内容でした。4年生は、全員で力強いメッセージを6年生に届けていました。そのメッセージからは、来年5年生になるにあたり、学校のリーダーになる強い覚悟が伝わってきました。



5年生からは、6年生が入学してから、今年までの写真スライドのプレゼントでした。懐かしい写真がたくさん用意され、1枚1枚に大きな反応があり、とても見応えのあるスライドに仕上がっていました。

最後に、みんなのビデオメッセージを持っていた「悪者」たちが、6年生の卒業に反対する5年生の一部であったというエピソードも紹介されました。とても、凝った演出で感心しました。

これを受けて、6年生からは、「未成年の主張」の披露がありました。内容は、各学年や、これまでお世話になった担任の先生方へ向けてのメッセージです。「〇〇に言いたいとがある～」「な～に～」というやりとりから、「楽しいメッセージ」や「これから函南小を頼むよ」というようなメッセージが届けられていました。「な～に～」の部分では、体育館だけでなく、校舎の方からも 笑い声が聞こえてきました。

一連のメッセージ交換が終わった後、児童会旗の引き継ぎと6年生が縫ったぞうきんの贈呈が行われました。

各学年の出し物を見ながら、6年生の笑顔があふれました。函南小の子どもたちの温かく優しい気持ちを、しみじみと味わうことができました。そして、「子どもたちによる手作りの卒業式」なんだなということを感じさせる、そんな素敵な時間と空間に浸ることができました。



# バルーンリリース

おやじの会が「願いよ届け！バルーンリリースプロジェクト」を企画していただき、2月28日（月）に実施することができました。前日まで、強い風が吹いており、開催が心配されていましたが、当日は、暖かく風もない日になり無事に実施できたことが本当に良かったと思います。

この企画実現のために「おやじの会」の皆さんたちが、校区の区長様を訪問し、今回の活動についての趣旨説明を行い、協力をお願いに行っていたようです。各区とも、快くご理解いただき、ご協力していただいたと聞いております。地区の方々の思いにも本当に感謝いたします。

会では、社会長さんから次のような話から始まりました。

この会は、コロナ禍で制限された生活を送っている6年生に思い出を作ってもらおうということが最大の目的です。これを実施するにあたり、今年の11月くらいから準備を始めました。何度も会合を重ね今日を迎えているわけですが、この会のために実際に動いてくれた人、活動には参加できなかったけど、メールやライン等でたくさんのアイデアをくれた人等、今日ここに来てくれたメンバー以外にもたくさんの人が関わったこと、そして、その大人たちは、自分の人生を楽しみながら、函南小の子どもたちのために頑張ろうと、優しい気持ちを持ちながら取り組んでくれましたことをまずお伝えしたい思います。

次におやじの会、水林さんから次のメッセージが読み上げられました。



おやじの会は「函南小の子」「そして元函南小の子」のお父さんやお母さんで作った函南小の応援団です。

私たちは、皆さんを笑顔にするための活動をしています。コロナウィルスの流行が始まってから2年がたちましたが、まだ流行は収まりません。おやじの会では、流行前はみんなで集まって遊ぶイベントをしてきましたが、コロナのためにできなくなりました。皆さんも楽しみにしていた学校行事が縮小になったり、中止になったりしてがっかりすることもあったと思います。

私たちは、皆さんを少しでも励ましたいと思いました。そのために、「私たちにできることは何だろう？」と、会のみんなで考えました。いろいろな意見を出し合って、「皆さんと一緒にバルーンリリースをしたらどうだろう？」と、思いついて、校長先生に相談したら快くOKしていただきました。「コロナの為にできなくなってしまったこともはたくさんあるけれど、コロナに気をつけながらできることもたくさんあるんだ。できることは探せばたくさんある。みんなで知恵を出し合えば、きっと見つかる。」そう思いながら、今日の準備をしました。

皆さんの手にある風船は、実は皆さんが住む地区の区長さんたちが、用意してくださいました。地区の皆さんも函南小の子どもたちが笑顔でいてくれることを願っています。私たち大人は、函南小の子どもたちみんなが健やかに成長してくれるように、地域みんなで応援したいと思っています。この風船が、みんなの夢となり希望となって大空へ高く飛んで行くところを、みんなと一緒に心に焼き付ける、そんな時間になったら良いと思います。



次におやじの会の皆さんからプレゼントがありました。それは大きな垂れ幕です。次のメッセージが藤井さんから読み上げられ、垂れ幕の披露がありました。

嫌なことも、苦しいこともちょっとだけ頑張ってみよう!!一緒に頑張ってみよう。家族や先生、地域の皆さん、おやじの会のメンバーから、みんなへの思いを込めて、「がんばろう!」を贈ります。この垂れ幕は、そんな思いで作りました。風船に込めたみんなの思いが届きますように!なりたいたい自分になれるように!



このあと、渡邊朝日さんの合図で、晴れ渡った青空に風船を放しました。

願いには「NBA選手になりたい」「世界で活躍するサッカー選手になりたい」「プロ野球選手になりたい」「市町駅伝の選手になる」「薬剤師になる」というような目標から、「BTSに会えますように」「推しに会えますように」等のかわいい願い、そして、「お金に困りませんように」というような切実な願いが書いてありました。風船は、西からの風に乗って、東方向、箱根の山に向かって飛んでいきました。風船の姿が消えるまで、手を振りながら、眺めていました。きっと、子どもたちの心に深く刻まれたと思います。

最後におやじの会岩田さんより次のメッセージがありました。



函南に小学校は5校ありますが、この学校だけ、進む中学校が分かれます。これから、大人になっていく過程で、みんなが辛いことや嫌なことが待っていると思います。そんなときに、今日のみんなで見上げた空を思い出してください。皆さんは、一人ではありません。みんなには、友達がいます。そして、みんなを見守っている親や先生、地域の方がいます。みんなが見上げた空は、世界中につながっています。その空の下では、みんなの友達も、見守っている人たちも頑張っていることを思い出して、辛いことや嫌なことを乗り越えて行ってください。

そして、みんなが大人になったとき、みんなの子どもたちにこんな思い出を作れる大人になってくれることも願っています。

※今回の風船については、「スカイアーテック社」の天然ゴム風船を使用しています。環境に考慮したものが使用されています。

空に飛ばした風船は、上空約800メートルまで上昇。上昇する過程で、風船は強い紫外線と酸化作用により急速に劣化。周囲の気圧も下がるので、飛行機の中のポテトチップスの袋のように膨張。そして上空800メートルに達したころ、気温はおよそマイナス5℃になるので、膨張にも耐え切れなくなつた風船は、凍結・破裂しスパゲッティ状となつて拡散しながら地上に落ちてくるのがわかっているそうです。

そして、今回使用したゴム風船は、天然ゴムから作られており、地上に落下した後は、土に戻ります。破裂するのではなく、ガス漏れという形で落下した場合でも、極の葉が土に戻るのと同程度のスピードでバクテリアによって分解され自然に戻っていくそうです。もちろん、野生生物が風船の断片を食べてしまうこと自体、絶対にありえないと言いつても過言ではありません。ただし、もし間違つて食べたとしてもそのまま排出され無害であるという事が分かっています。引用：日本バルーン協会「ゴム風船についての研究と報告」

